

# ニュージーランド 視察報告書

沖縄経済同友会  
2017年11月

主催：国際委員会

共催：地域・経済活性化委員会

観光委員会

環境・農業・エネルギー委員会

## 視察団名簿

(敬称略)

氏名	当会役職	会社名・役職
玉城 義昭	代表幹事	(株)沖縄銀行 代表取締役頭取
渕辺 美紀	副代表幹事	(株)ビジネスランド 代表取締役社長
東 良和	副代表幹事	沖縄ツーリスト(株) 代表取締役会長
東川平信雄	国際委員長	(株)おきぎん経済研究所 代表取締役社長
大嶺 克成	常任幹事	(株)沖電工 代表取締役社長
小林 文彦	常任幹事	川崎重工業(株)沖縄支社 支社長
知念 克明	常任幹事	沖電開発(株) 代表取締役社長
照屋 保	常任幹事	(株)りゅうぎん総合研究所 代表取締役社長
西平 典明	常任幹事	(株)おきぎんリース 代表取締役社長
古堅 幹也	常任幹事	沖電企業(株) 代表取締役社長
前谷 哲郎	常任幹事	全日本空輸株式会社 担当部長
湧川 盛順	常任幹事	那覇空港ビルディング(株) 専務取締役
池宮 力	会員	沖縄プラント工業(株) 代表取締役社長
出村 郁雄	会員	(株)おきぎんジェーシービー 代表取締役社長
栩野 浩	会員	(株)O T S サービス研究所 代表取締役社長
井口 郁	会員企業	(株)琉球銀行 執行役員本店営業部長
沖山 真樹	会員企業	沖縄ツーリスト(株) 取締役
慶田城 広	会員企業	第一総業株式会社 常務取締役
大門 貴司	事務局	沖縄経済同友会 事務局長
山根 義文	事務局	沖縄経済同友会 事務局次長
玉城 今	添乗員	沖縄ツーリスト(株)

視察日程表《2017年11月19日（日）～25日（土）》

1 日目 11/19 (日)	10:00 那覇空港 国内線ターミナル3階ANAカウンター前集合・搭乗手続き 12:00 沖縄発 ANA (全日空) /NH2158 14:30 成田空港着 【フライト時間:2時間30分】 《出国手続》 18:30 成田空港発 ニューージーランド航空 /NZ090	機内泊
2 日目 11/20 (月)	09:05 オークランド着【フライト時間:10時間35分】日本との時差:+3時間 《乗継》 入国手続き、国際線から国内線へシャトルバスで移動 11:00 オークランド発 ニューージーランド航空 /NZ421 12:05 ウェリントン着 【フライト時間:1時間05分】 昼食 14:30～16:00 ・第一次産業省 17:30～20:00 ・日本大使館公邸でのブリーフィング・夕食会	ウェリントン 1泊
3 日目 11/21 (火)	ウェリントン市内視察 12:15 ウェリントン発 ニューージーランド航空 /NZ605 13:35 キーンズタウン着 【フライト時間:1時間20分】 14:30～15:40 ・OTSレンタカーニューージーランド 支店視察・開所式 Qbook よりQualmark についてのヒアリング 19:00 OTSレンタカーにて夕食会(約2時間程度 予定)	キーンズタウン 2泊
4 日目 11/22 (水)	終日 ・世界遺産「ミルフォードサウンド」視察 遊覧船にて「フィヨルドクルーズ」をお楽しみください ※国立公園ビジターセンター見学	
5 日目 11/23 (木)	09:35 キーンズタウン発 ニューージーランド航空/NZ614 11:25 オークランド着 【フライト時間:1時間50分】 14:00～ ・オークランド戦争記念博物館 14:30～15:00マオリショー鑑賞	オークランド 2泊
6 日目 11/24 (金)	09:30～11:00 ・Gulliver North Shore 13:30～15:00 ・Qualmark 17:00～18:00 JETRO・オークランド総領事館職員によるブリーフィング 18:30～21:00 ・高田大使・現地日系企業との夕食会	
7 日目 11/25 (土)	09:55 オークランド発 ニューージーランド航空/NZ099 16:45 東京(成田)着 【フライト時間 : 10時間50分】 17:55 東京(成田)発 ANA (全日空) /NH2159 21:05 沖縄着 【フライト時間 : 3時間10分】	

## 目 次

1. 視察団名簿	P 2
2. 視察日程表	P 3
3. 視察総括 国際委員会委員長（視察委員長） 東川平信雄	P 5

### 【視察先別の報告】

(1) 第1次産業省 大門 貴司 (沖縄経済同友会 事務局長)	P 7
(2) 大使館ブリーフィング 山根 義文 (沖縄経済同友会 事務局次長)	P 1 2
(3) 中古車 (OTSレンタカー・ガリバー) 照屋 保 ((株)りゅうぎん総合研究所 代表取締役社長)	P 1 4
(4) ミルフォードサウンド 栩野 浩 ((株)OTSサービス研究所 代表取締役社長)	P 1 8
(5) クォールマーク 湧川 盛順 (那覇空港ビルディング(株) 専務取締役)	P 2 2
(6) J E T R O ・ 総領事館ブリーフィング 山根 義文 (沖縄経済同友会 事務局次長)	P 3 0

以 上

## 視察の総括

国際委員会委員長 東川平信雄

私たち沖縄経済同友会玉城義昭代表幹事を含め視察団 20 名は、平成 29 年 11 月 19 日から平成 29 年 11 月 25 日までの 7 日間の日程で南西太平洋に位置する国、主に北島（ノースアイランド）と南島（サウスアイランド）からなるニュージーランド（以下、NZ と略する）の各事情を視察いたしました。

今回の視察の目的は、国際委員会の活動方針に沿って（1）国内各地で問題視されている「ヒアリ」対策への取り組み状況を学び（2）観光ツーリズムにおける沖縄ツーリスト株式会社のレンタカー事業展開及び世界遺産「フィヨルドランド国立公園」視察（3）沖縄の物流関連ビジネスモデル創出の一環でもあります中古車輸出事業の取り組み企業への訪問（4）観光関連ビジネス品質認定制度（クオールマーク制度）についての講話を受ける等の視察・調査をすることにより、政府関係機関や現地日系企業との意見交換等の交流を図り、今後の海外ビジネスの可能性等について反映させることであります。

視察先 NZ へは、那覇発（成田経由）NZ（オークランド経由）最終目的地ウェリントン着「フライト時間 14 時間 0 5 分（時差 3 時間）」の長旅となりました。

NZ 北島最南端部に位置している首都ウェリントンは、比較的小さい都市ですが、世界一魅力的な首都、風の街とも呼ばれ政府機関が集中しているところです。

ウェリントンに到着し昼食後、早速、第一次産業省を訪問し国家プロジェクトで短期間（2 年間）での完全駆除ができたヒアリ対策の説明を受けました。

ヒアリの被害は、作物、畜産業、野生の希少種への被害・影響のみならず、不動産や観光地の価値が下がる等、被害は広範であり、その対策としては、早期の発見と侵入・定着を防止するためにも水際において十分な防除対策を早急に講じることが重要とされています。現在も徹底した管理とモニタリングが、継続されていました。

その後、日本大使館公邸にて中井一浩公使より NZ に関するブリーフィングを受け、引き続き夕食会が開催され、大使館関係者、千葉県市原市市長ご一行、ウェリントン日本人商工会の方々も同席され有意義な懇親会となりました。

視察 2 日目の目的地 NZ 南島クィーンズタウンへは、飛行機での移動でした。ホテルから空港へ向かう前に、ウェリントン植物園まで続く有名な赤いケーブルカーに乗り、都会的な街並みと自然が融合している景色を楽しみ、植物園の咲き誇る美しいバラを見ることで旅の疲れが癒されるひと時でした。

NZ 南島にあるクィーンズタウンは、NZ が誇る唯一のリゾートタウンであり世界でも有名な観光地・保養地であります。

空港に到着と同時に目に飛び込んできたのは、壮大な自然の感動的な景観でした。映画「ロード・オブ・ザ・リング」などの撮影地にもなったことにも納得です。そこに、沖縄を代表する我々経済同友会副代表幹事であり、沖縄ツーリスト株式会社東良和会長が、OTS レンタカー NZ 支店を開設されたのです。なぜ NZ（クィーンズタウン）に・・・？現地を訪れるまでは、そのような疑問もありましたが、実際に行ってみるとその疑問は、一気に吹き飛びました。

NZ 観光の醍醐味の 1 つには、NZ に降り立ちレンタカーに乗って魅力あふれる大自然に触れ、ラム肉やシーフード、ニュージーランドワインなど NZ グルメを満喫すること、それは、感動そして最高の至福その

ものです。一言、「百聞は一見に如かず！」これが全てです。これからの OTS レンタカー NZ 支店の更なる事業拡大と活躍を感じることができました。

また、それを証明し、これからの沖縄観光を考えさせてくれたのが、世界遺産「フィヨルドランド国立公園」や「ミルフォード・サウンド」視察でした。特にミルフォード・サウンドでのフィヨルドクルーズは、大自然を体感させてくれました。その豊かな自然の美しい滝や野生のペンギン、切り立った断崖絶壁、観光地としてのスケールの違いを感じさせられました。現在、NZ は、オーストラリアからの観光客が全体の大半を占めていますが、アジア諸国からの観光客誘致に積極的に取り組んでいます。

視察 4 日目、クィーンズタウンでの 2 日間の日程を終え、最終視察地である NZ 最大の都市であり、商業及び経済の中心地となっているオークランドへ空路にて移動しました。

オークランド到着後の視察先は、オークランド戦争記念博物館（戦争関連に限らず、NZ の全てを網羅した展示内容になっている）と、個人的にも関心がありました中古車輸出事業の取り組み企業であります Gulliver（日本国内大手中古車販売：ガリバー）の視察でした。

NZ は、先住民族マオリ文化が融合する国であり、オークランド戦争記念博物館では、入植者たちの歴史や生活風景、マオリ・カルチャーショー（ハカダンスなど）を見学することができ、改めて沖縄（琉球）の歴史を深く考えさせられた時間でした。

また、現在の NZ は、1990 年代に国内の自動車製造は終了していることから全ての自動車が輸入車であり、日本からも多くの自動車を輸入しています。その背景もあり昨年は、沖縄の物流関連ビジネスモデル創出の一環で NZ への中古車輸出実証事業も行われています。今回のガリバー視察は、今後の物流関連ビジネスモデルの可能性を強く感じる視察でした。

視察の旅も最終段階に入り、バスで移動後、クォールマーク運営事務局にて担当者から観光関連ビジネス品質認定制度（クォールマーク制度）についての講話をしていただきました。短い時間でしたが、沖縄観光にも参考になる制度なので多くの方から活発な質疑応答がありました。

その後、オークランド領事館へ場所を移し、JETRO オークランド事務所の林道郎所長、在オークランド総領事館横山佳孝総領事から NZ の経済・社会状況についてブリーフィングを受け、在ニュージーランド日本国大使館高田稔久特命全権大使よりご挨拶をいただき、引き続き行われた NZ 最後の夕食会にて懇親を深めることができました。そして、美味しいお酒とともに視察最終日の夜は更けました。

翌日、オークランド発（成田経由）にて那覇空港着の全ての日程を終え全員が元気で帰着となりました。

今回の NZ 視察は、ハードな日程でした。しかしながら、満足感・満腹感・ワクワク感いっぱいの視察旅行でした。特に刺激を受けたのが、NZ の秘めた国力と潜在能力の深さです。まだ、一部に未完成的な部分もありましたが、時間とともに成長している存在感・底力を強く感じさせられました。今後は、この視察で経験させていただいた知識を更に深め、沖縄経済同友会国際委員会の目的に反映させてまいります。

以上が、私の視察での所感ですが、最後に今回の NZ 視察にご協力並びにご参加下さいました皆様へ、視察が無事に終えたことと実り多き旅とさせていただきましたことにお礼を申し上げまして視察の総括とさせていただきます。

「ヒアリ」対策を学ぶ ～第一次産業省訪問～

南米原産で強い毒を持つ外来アリ、「ヒアリ」が2017年5月以降、神戸、名古屋、大阪の各港など国内各地で見ついている。ヒアリは現在、南米から世界に広がり10カ国以上の国に侵入しており、米国や中国など多くの国で死者を含む被害を出している。ニュージーランドでは2001年にオークランド国際空港の近くでヒアリの巣（アリ塚）が見つかったが、即座に国家プロジェクトでの完全駆除に取り組み、2年後までに駆除に成功した。今回、観光産業や農業に多大な影響を与えかねないヒアリ対策と根絶経過について、ニュージーランド到着初日（11/20）、首都ウェリントンにある第一次産業省を訪ね、ヒアリ対策の担当者から直接説明を受けた後、視察メンバーとの質疑応答の機会を得た。



「ヒアリ」(fire ant)  
スズメバチと同じくらい強い毒を持ち、相手を問わず攻撃する(´Д`)!



ニュージーランドでアリ塚が発見された場所

内閣官房  
環境省

# ヒアリに気をつけて

これまで存在していなかった危険な毒アリが国内で現れています。  
もし発見しても、決して触らないでください!

**大きなアリ塚が目印**  
日本のアリは、大きなアリ塚を作りません。大きなアリ塚を見つけたら、触らず、すぐに通報を。

**ヒアリかな?と思ったら**  
ヒアリのような蟻を見つけたら、自分で駆除せず、お近くの地方環境事務所か都道府県の環境部に通報を。

通報先 ●●県 環境部 (例) ●●都府県 環境局 ●●検査

もし、刺されて、少しでも異常を感じたら **すぐに近くの病院へ。**  
アリに刺された旨を伝えて受診してください。  
ヒアリの毒への反応は、人によって大きく異なります。

**ヒアリ FIRE ANT**

大きさ 2.5mm~6.0mm

特徴 ●カラダは赤茶色  
●腹部に2つのこぶ  
●お尻に毒針

刺されると、強い痛みを伴いアレルギー症状がひどくなると重症化することもある。

ヒアリに関する情報  
ヒアリの発生場所も確認できます  
<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/fireant.html>  
(環境省ホームページ)

内閣官房環境省の注意喚起

## ニュージーランドにおけるヒアリ根絶経過

ニュージーランドでは、2001年のオークランド空港、2004年のネピア港、2006年のネピア市ウィリナキにおいて3回のヒアリ発見事例が報告されており、全て根絶に成功している。

直近の事例となる2006年のネピア市で発見された際は、2～3年目の巣で大きなアリ塚を作っていた。その巣を駆除した後、第1次産業省では3年間、バイオセキュリティ法に基づき、**巣があった場所からの距離別の対応**として、その巣から半径2km以内は材木や土、植物などの高リスク物品（危険な荷物）の移動を禁じ移動制限地区を設けた。具体的な根絶確認方法としては半径50m（営巣可能性に応じ拡大）には、2種類の毒餌（ベイト）を1m間隔で交互に配置した。半径200mでは高リスク区域として誘引餌と落とし穴を併用した調査を行い、半径500mでは半径200m以内の調査後、誘引餌のみ使用し調査を行った。半径2kmでは、金属・ガラス・水など反射しやすい表面の区域、水路、下水道、羽アリが来やすい風向の地域、コンベヤーなどを調査した。なお、毒餌配置後、残量は毎日チェックし、餌が無くなった場合、半径10mに薬剤散布を行った。



【第一次産業省にて担当職員の説明に、熱心に耳を傾ける参加者】

### 【タンパク質ベースの誘引餌】

（ピーナツバター・大豆油・ソーセージ）



### 【砂糖ベースの誘引餌】

（濃度20%の砂糖水に浸した綿球）



巣の壊滅後、ヒアリ対策として行った3年間の監視体制は、①半径500m以内：毎夏、10m四方に上記2の誘引餌を2種類×2個設置、②半径2km以内：毎夏、15m四方に上記2の誘引餌を2種類×2個設置、③半径2km以内の立入不能区域：3種の薬剤を6回ずつヘリコプターから散布、というものだった。その後の平常時体制のモニタリング方法は、外来アリ侵入の可能性のある地点（空港、港湾）などに、誘引餌を全国で5万個設置して継続調査する他、フリーダイヤル



による一般からの通報受付、第一次産業省認定者による施設検査も行っている。人件費別で年間60万NZドル（約5千万円）を投じている。

このように、徹底的なリスク管理やモニタリング、人々が足を踏み入れない場所ではベイトと呼ばれる毒餌の配置、薬剤の散布などを行っている。物流制限をした上で駆除も徹底的にやっているので、ひとつのアリ塚に対してかけたお金も桁違いに多いが、それこそが拡大防止の成功につながった要因である。



冒頭、マオリ語の“tamaki”について説明



最後に講師へ感謝の意を伝える玉城代表

ヒアリの問題は、にわかに出てきたと捉われがちだが、実は物流の発達に伴ってこれまでも、そして、これからも「あり続ける」リスクである。ヒアリの報道も徐々に少なくなっているが、ヒアリの発見例がなくなっているわけではない。環境省のホームページを見ると、現在も毎月のように、確認事例が報告されている（幸い沖縄県内での発見事例は今のところない）。

また、人知れず大きくなったアリ塚が、日本のどこかで見つかった場合でも、日本ではニュージーランドのように物流移動制限をかけることは難しいといわれている。日本の物流システムを考えると、ヒアリの巣が見つかったからと言って半径2キロの物流を全て制限することは現実的とは言えないからであり、どの法律で制限できるのかという課題もある。よって、日本の現状に適した戦略を今から立てて準備しておく必要がある。

ヒアリに限ったことではないが、外来種を根絶できるか否かは、侵入初期の発見と見つかった場合の初動に尽きる。時間が経って、外来種が広がってしまった後に根絶しようと思っても、そのコストは大きく、成功率は低くなる。ヒアリの場合、今のところ国内では、コンテナヤードや荷物を運び出した後のコンテナからしか見つかっておらず、自然定着は報告されていない。

ヒアリの問題は今始まったばかりだが、今後ずっと対処しなければならない問題である。正確な知識に基づいて、油断することなく正しく怖がることが大切であり、水際対策として侵入状況のモニタリングなど、必要な技術をしっかりと磨いていくことが求められている。

(事務局長 大門 貴司)

海外におけるヒアリ対策事例

国	場所	発見年	目標	確認エリア	対策エリア	対策項目	対策手法	実施時期	成果	対策額	コスト	管理者
米国	アラバマ州、ミシシッピ州、ジョージア州、フロリダ州、ルイジアナ州など	1930年代	根絶	60万km <sup>2</sup>	2,300万ha	分布域の一部	薬剤(マイレックスやアムロイド)の散布	1957~1982年	ほとんど効果を上げられず。マイレックスはヒアリよりも他のアリ類に良く効き、結果的にヒアリの増加を招いたとの指摘がある。	期間中で1億7500万 <sup>米</sup> ドル(525億円) ※1 <sup>米</sup> ドル300円で換算	被害額 農業被害のうち、放牧出来なくなるもののみの被害年間6,700万~2億5500万 <sup>米</sup> ドル(約74億~約281億円) ※1 <sup>米</sup> ドル110円で換算	合衆国政府、州政府
オーストラリア	Yarwun (クイーンズランド州)	2006年	根絶	71ha (11コロニー以上)	1,028ha	アリ塚 高密度地域 分布全域	液剤(Termidor(フイフロニル2.5ml/100L)25~40Lをアリ塚に注入、周辺20mに散布) 顆粒Andro(ピロメタルン5g/kg、ニューグランド、大豆)2.5kg/haを高密度エリアに散布 Distance(水域から8mまで、ピロプロキシエン5g/kg)1.6~2.0kg/ha、Engage(水際まで可、S-メソフレン5g/kg)1.6~2.0kg/haを空散、または手動散布機により、18か月に渡り、7回散布。 1km以上の緩衝域へもDistance、Engageを散布。(水域との距離により薬剤を選択)	9月~5月、アリの活動の最盛期であり、ベイトの持ち帰りよりも良い時期。	期間中で380万AU <sup>米</sup> ドル(2億5千万円) ※1AU <sup>米</sup> ドル63円で換算	他国の農作物、家畜、インフラ、健康、学校、レジャー等の状況から換算した推計額 年間16億5000万AU <sup>米</sup> 以上(1452億円以上) ※1AU <sup>米</sup> ドル88円で換算	Biosecurity Queensland	
プリズベン(クイーンズランド州)	2001年	根絶	~36,000ha			検疫	物資の検疫を実施、住民、企業団体ともに検疫区域外への土や物資の運出しは許可制とした。運返者には罰金が科せられる。 Distance(水域から8mまで、ピロプロキシエン5g/kg)1.6~2.0kg/ha、Engage(水域から8m~水際まで、S-メソフレン5g/kg)1.6~2.0kg/haを空散、または手動散布機により散布。最初の処置は発見後1か月以内、シーズン内に3回の頻度、2年連続で実施。ピロプロキシエンがより長期安定であり、アリの減少に効果が高いため、S-メソフレンより好まれた。 人への影響が心配される場所のアリ塚にはTermidor(フイフロニル2.5ml/100L)25~40Lを注入、周辺20mに散布した。 既知分布域の周辺500mは緩衝帯として分布域と同様の処置を実施。ただし、1隻のみの確認の場合は緩衝帯を50mとした。 航空画像を用いたリモートセンシング(地上の探査チームより安価で効率的)、探査犬を用いた新規の侵入地探査は功を奏した。	2001年からの累計で3.2億AU <sup>米</sup> ドル(210億円) ※1AU <sup>米</sup> ドル63円で換算	2001年からの累計で3.2億AU <sup>米</sup> ドル(210億円) ※1AU <sup>米</sup> ドル63円で換算	Biosecurity Queensland		
						防除	今後10年間で、オーストラリアの根絶事例を元に、薬剤の空中散布や巣への液剤注入、リモートセンシングや探査犬による探査などが実施される。	2017~2026年	10年間で4億1140万AU <sup>米</sup> ドル(362億円) ※1AU <sup>米</sup> ドル88円で換算			

政府「第2回ヒアリ防除等に関する専門家会合(平成29年9月11日)」資料から抜粋

ニュージーランド	オークランド空 港	2001年 (2月)	根絶	採掘エリア は30～ 40m、糞糞 ペイトに約 2,000頭の 働きアリ	分布確認 周知 協議 防除	空港職員がアリに刺され、第一次産業省に報告して 発見。発見地から半径500m内について目視調査、そ の後ペイト調査も含めて1kmに範囲を拡大、また、空 港から5km以内の高リスク地域(苗場など)については ペイト調査を実施。 約95,000冊のヒアリハンフレットを分布域周辺の住 民、企業、また仕事として認知すべき、公立病院、獣 医、防除業者、専門家に配布。 Policy Development Advisory Group (PAF、他の政府 機関、政府の決定により影響を受ける産業関係者 等)、RIFF A Technical Advisory Group (MAFの専門 官、オーファンド協議会、保全省、保健省、王立森林鳥 類保全協会、防除業者)を招集。また、アメリカのヒア リ専門家より生態学、防除手法等について助言。 具体的な手法を確認できず	2001年11月～ 2003年6月	根絶達成。	期間内で 143.2万NZ\$ (1.18億円) ※1NZ\$=82.6円換算	侵入のあった2001年時点 の被害推計額は3億1,800 万NZ\$以上。 (262億7千万円以上) ※1NZ\$=82.6円換算)	第一次産業省
	Napier港	2004年 (2月)	根絶	採掘エリア は30～ 40m、糞糞 ペイトに約 2,000頭の 働きアリ	分布範囲確認 行列確認地点 繁殖確認(女 王、ブルード、 雄)地点 分布周辺域 追加処置	全国外来アリモニタリングにて発見。直後よりビーナ ツバタ、大豆油、ソーセージ、20%砂糖水を無毒誘 引餌として用意し、車庫の目視調査で発見された地 点の半径10mに最低10個の誘引餌を設置した。15、 30、60、90、120分後に確認し、高リスク性のある個 所をマークした。防除実施まではかく乱しないように 注意した。 Max Force(1%ヒドロキサチン)、コーングリッドまたは サナギ粉、乾燥した状態限定)、X-stinguish(フイフロ ニル)、Exterm-an-Ant baitを営業推測地点の半径 5mに散布。毒餌は巣口、好適地、採餌経路に優先的 に設置する。 毒餌を設置、24時間ごとにモニタリングしながら、ワー キングを見なくなるまで毒餌を追加、雄が見られた 場合には直ちに布を撤せて逸出を防ぐ。 Max Force(1%ヒドロキサチン)、コーングリッドまたは サナギ粉、乾燥した状態限定)、X-stinguish(フイフロ ニル)をアリを確認した箇所周辺20mの好適地に散 布。 BIFLEX SC80(シロアリ用残留性殺虫剤、Bifenthrin: ヒレスロイド系)を散布。アリ確認地点周辺の物陰な どを露出させ、生息適地に散布するとともに、アスファ ルトにドリルで450mmの穴を開けて注入した。	2004年11月～ 2003年6月	根絶達成。 処置初日は終日採餌に来ていた。 コーングリッドよりサナギ粉の MaxForceで効果が高い。 ExtermAntにはあまり集まらな い、10日間7回の処置。7日目から ヒアリは確認されなくなったが、その 10日後に再確認。ペイトのみによる 駆除は100%の根絶には至らなかつ たが、処置期間は短かったことによ るかもしれない。	不明	第一次産業省	
	Whirinaki	2006年 (6月)	根絶	2m(アリ塚 3、30,000 頭、発見後 2～2.5年)	検疫 分布全域 根絶確認	菓の周囲、半径2kmが検疫区域に設定され、高リスク の物資の移動が制限された。管理区域の廃棄物は同 地域内に保管。 Distance (GR剤)、ヒアリコキエン5g/kg、コーング リッド、大豆油)2.0kg/ha、Engage (GR剤、S-メソプレ ン5g/kg、コーングリッド、大豆油、水域周辺) 2.0kg/ha、MaxForce Pro (ヒドロキサチン)0g/kg、さ なぎ粉)2.0kg/haを3年に渡り、年2回、計6回散布。 3年間(2008年10月、2007～2009年は各2月)140地点 のヒットオールドラップ(蜂蜜・タンパク誘引剤あり、 なし両方)と目視センサスによりモニタリングを実施。 徒歩による立ち入り禁止区域についてはペリロブター によりセンサスを実施。	2006年11月～ 2003年6月	根絶達成。発見後すぐには糞は破壊 された。3年後まで900,000ペイトを 確認したが新たなヒアリは確認され ず、根絶を確認した。	期間内で850万NZ\$ (7億円) ※1NZ\$=82.6円換算)	第一次産業省	
台湾	石門 (Shihmen)貯 水池	2004年	根絶	13ha(アリ 塚1,578)	分布全域 防除	Estem(ヒアリコキエン5g/kg、コーングリッド) 2kg/haを肥料散布機を用いて1年以上、4回散布。	根絶達成。2回の処置後に98.2%の 減少、4回の処置後に100%となつ た。	2010年時点で、国立台 湾大学の外来ヒアリ列 害センター(NRIACC) の予算規模は年間約 1500万～1800万台湾 元 (5,500～6,500万円) ※1台湾元=3.35円)	2017年度までに合計 で台湾政府は10億台 湾元(36.5億円)以上 ※1台湾元=3.65円)	国立台湾大学	